|  |
| --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（２年め）** |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立八尾支援学校 |
| **取り組む課題** | 生徒の自立支援 |
| **評価指標** | 1. 学校教育自己診断アンケートの満足度の向上
2. 学校生活における、児童・生徒・保護者の満足度の向上
3. 体力テストによる体力の向上と肥満度検査による肥満度の減少
 |
| **計画名** | 八尾アスレッチックフィールド～みんなで一緒に楽しみ、自分から身体を動かしたくなる環境づくり～ |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | **２　キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現**（２） 生徒が地域への関わりを深める活動や、余暇活動・健康維持につながる取組みを推進する。 |
| **事業目標** | 1. 知的障がい者の体力レベルは健常者と比べ40～60％レベルとされている。日常的な健康に対する意識と習慣が影響していると考えられるため、本計画を通じ運動をする楽しさを感じると共に、運動する習慣を身に付け、体力レベルの向上をめざす。
2. 体を使いこなす経験と運動する習慣を身につけるだけでなく、友だちや教員と一緒に取り組むことでコミュニケーション能力の向上を図る。
3. 体力向上を実感し運動に対し自信を持つことで自己肯定感を高められるように計画を進める。
 |
| **整備した****設備・物品** | * ボルダリングウォール（難燃性FRP製）W6000×H2500
* ボルダリングで使用するヘルメット（27個）
* ヘルメットの収納ベンチ（２台）
* 築山を芝生化させるための芝生の種（コウライ芝、整地込み）
* 芝生を養生するための散水器・散水タイマー・ホース
* ウッドチップ敷き均し
 |
| **取組みの****主担・実施者** | 主担者： 首席・校内選考会での提案者（教員２名）実施者： 全教員 |
| **本年度の****取組内容** | ≪児童生徒の使用≫特別活動や自立活動を中心にした活用。≪清掃、整備活動≫高等部の「生活実践」という授業の中で自立活動の一環として、月２回、ボルダリングの清掃、築山の雑草抜き、ウッドチップの整備を行った。≪アンケートの作成・実施≫学校教育自己診断アンケートにおいて、八尾アスレチックフィールドについての満足度や活用度を測る設問を新設した。 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | 1. 体力測定における体力平均値　前年比５ポイント向上
2. 生徒（中学部抽出）の1年間の肥満度上昇値を＋1.3％以下に抑える（H30年度＋1.5％、R1年度＋1.3％）
3. 学校教育自己診断アンケートによる肯定的意見70％以上
4. 八尾アスレチックフィールドの整備メンテナンスを月１回以上実施する
 |
| **自己評価** | 1. 新型コロナウイルス感染症の影響による活動の制限や、芝生の生育不良により築山の使用開始時期が10月末になってしまい、体力測定が実施できなかった。 （－）
2. 生徒（中学部抽出）の１年間の肥満度上昇値

R1年度：１学期7.8％　→　３学期9.1％（＋1.3％）R2年度：１学期3.8％　→　３学期5.9％（＋2.1％） （△）* + コロナ禍で在宅期間が長く、学校においても運動する機会が減少したことが原因であると考えられる。
1. 学校教育自己診断アンケートによる肯定的意見

【高等部生徒向け設問】: 「八尾アスレチックフィールドのボルダリングや芝生は楽しいですか。」R2年度 47％ （△）* + コロナ禍で使用する機会が少なかったことが原因であると考えられる。

【保護者向け設問】： 「楽しく運動するための環境が整備されている。」R2年度 89％ （◎）【教職員向け設問】： 「授業や特別活動等で八尾アスレチックフィールド（ボルダリング・築山・ウッドチップ）を活用している。」R2年度 51％　 （△）* + コロナ禍で使用する機会が少なかったことが原因であると考えられる。
1. 高等部の生徒が授業「生活実践」の中で、清掃、整備活動を月２回実施した。 （◎）
 |
| **次年度に向けて** | * 体育の授業を中心に、既存の遊具と組み合わせながらサーキットトレーニング等を取り入れて、体力テストによる体力の向上と肥満度の減少に繋げていく。
* 学校教育自己診断アンケートによる肯定的意見70％をめざす。
* 児童生徒の自立活動の一環として、芝生やウッドチップの維持・整備に取り組み、小中高で一貫したキャリア教育を推進していく。
 |